ID No.	2120
研究課題名	抗がん剤治療介入による前転移ニッチ誘導機構の解明
研究代表者	坂本　毅治　　（関西医科大学・学長特命教授）
研究組織 受入教員 研究分担者	 古川　洋一　　（東京大学医科学研究所・教授） 中山　麻衣　　（金沢大学・技術補助員） 福井　優也　　（東京大学・大学院生） 山口　喜世志　（東京大学医科学研究所・講師）

研究報告書

抗がん剤投与による前転移ニッチ形成に関わる遺伝子の探索のため、ドキソルビシン、パクリタキセル投与後のマウスの肺、肝臓について RNA-seq 解析を行った。その結果、がん転移に関わることが報告されている遺伝子 X が肺でのみ特異的に誘導されることが明らかとなった。また、がん細胞自身に対する抗がん剤投与の影響について、ヒト乳がん MDA-MB-231 細胞に対する RNA-seq 解析を行った結果、抗がん剤抵抗性やがんの悪性化に関わる遺伝子 Y の発現がマウスで腫瘍を形成させた際に著しく誘導されることが明らかとなった。この遺伝子 Y の発現誘導機構について ChIP-seq 解析を行い、Y の発現誘導に関わる転写因子を同定した。